

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

平成30年6月13日

川越市長 殿

提出者

住 所 埼玉県さいたま市浦和区高砂2-6-5

氏 名 戸田建設株式会社関東支店

執行役員支店長 大谷 清介

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 048-827-1336

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	戸田建設株式会社関東支店
事業場の所在地	埼玉県さいたま市浦和区高砂2-6-5
計画期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	総合工事業
②事業の規模	元請完成工事高 3,520,000万円
③従業員数	361名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別添1 処理工程図のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別添2 管理体制図のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	—
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 各現場においてまず「持ち込まない」運動を展開し、梱包材の簡素化と、企画材のプレカットの取組、代替材の使用等を実施する。また、各作業所とも産業廃棄物排出総量の目標値を設定し、排出量を削減する。 ※手順として環境管理の手引きを使用		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	—
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 今後も引き続き、作業所と連携し目標値の管理に努める。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物の分別の徹底、リサイクル品として中間処理施設へ排出。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 定期的に作業所会議などで教育を実施している。 作業所においても産廃処理業者を呼び、職人たちへの分別指導教育を実施している。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組) 特に実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	— t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組) 特に実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし		

備考

- 1 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記載すること。
- 2 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 3 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、再生利用業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の4の2第1項)への処理委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 4 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 5 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 6 ※欄には、何も記入しないこと。
- 7 用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組) 特に実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(これまでに実施した取組) 委託基準に基づき、委託可能な処理業者を選定している。 また、定期的に施設見学を実施し、処分場も現地確認を行っている。			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
(今後実施する予定の取組) 今後も引き続き適正な処理業者の選定と現地確認を行っていく。			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別添1 処理工程図

がれき類・コンクリート塊 → 破碎 → 再生砕石として再生利用（委託）

金属・廃プラ → 破碎・圧縮梱包・減容 → 代替燃料、再生原料として再生利用（委託）

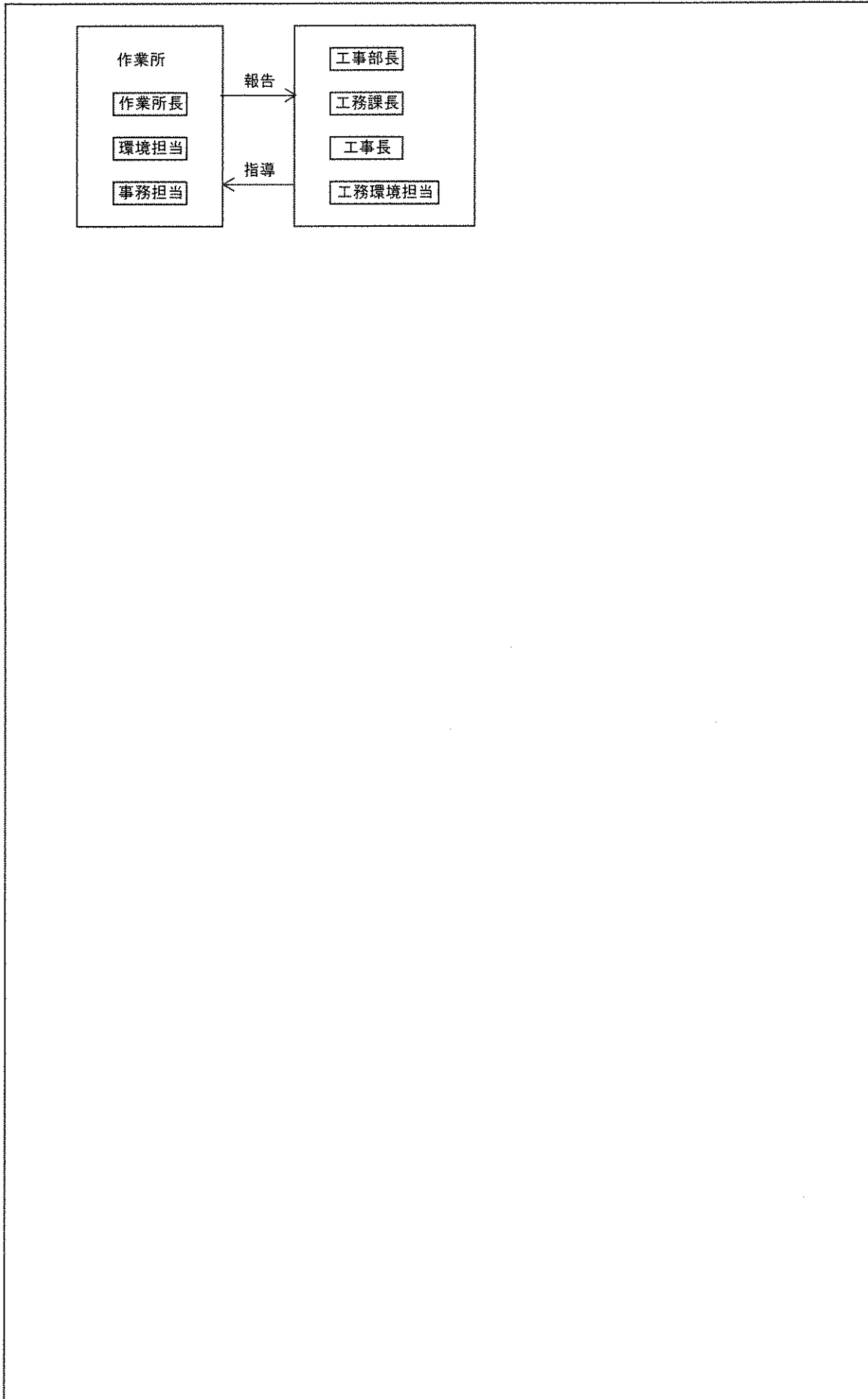
石膏ボード → 破碎・粉碎・焼却 → 石膏ボード原料、発電原料として再生利用（委託）

木くず → 破碎 → 代替燃料・堆肥原料として再生利用（委託）

混合廃棄物 → 破碎・圧縮梱包 → 埋立（委託）

紙くず・繊維くず → 焼却 → 代替燃料として再生利用（委託）

別添2 管理体制図



産業廃棄物処理計画書 別紙集計表

現状：前年度(平成29年度)実績量
計画：今年度(平成30年度)計画量(目標)

単位：トン

産業廃棄物の種類	排出抑制		自らの中間処理				処理の委託											
	排出量		自らの回収を行った(行う)量		自らの中間処理により減量した(する)量		自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った(行う)量			優良認定処理業者への処理委託量			再生利用業者への処理委託量			認定熱回収業者への処理委託量		
	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画
汚泥	1,056.5	950.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,048.0	943.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
廃プラスチック類	15.8	14.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14.1	12.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紙くず	7.7	6.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.7	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
木くず	28.4	25.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14.6	13.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
金属くず	0.9	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.9	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ガラス陶磁器等くず	62.7	56.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	56.4	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
廃石膏ボード	4.2	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.2	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
コンクリート片	11,018.0	9,916.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32.8	29.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アスコン片	236.4	212.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.2	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他がれき類	258.6	232.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.6	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設混合廃棄物(安定型)	4.0	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設混合廃棄物(管理型)	40.7	36.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40.7	17.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
石綿含有産業廃棄物	13.8	12.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	12,747.7	11,472.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,157.3	1,041.5	204.7	184.1	12,747.7	11,472.9	0.0